

日本生殖看護学会 ニュースレター

No.
71

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

目 次

・生殖看護認定看護師教育の展望	1
・第23回日本生殖看護学会学術集会のご案内	2
・2024年度生殖看護実践セミナー報告	3
・2024年度生殖看護実践セミナーに参加して	3
・これから行われる学術集会・研修会情報(2025年7月～2025年10月)	4
・不妊症看護認定看護師 リレー寄稿No.28	5
・オンラインジャーナル公開開始のご案内	5
・トピックス	6
・2025年度オンライン学習支援プログラムを月1回、配信中です!!	7
・理事会報告	7
・事務局からのお知らせ	8
・会員数MAP	8
・原稿を募集しています!	8
・編集後記	8

生殖看護認定看護師教育の展望

英ウィメンズクリニック・大阪信愛学院大学生殖看護認定看護師教育研修センター

上澤悦子・小松原千暁

特定行為研修を含むB課程での英ウィメンズクリニック・大阪信愛学院大学生殖看護認定看護師教育研修センターは、今年2年目を迎え、2期生が学んでおります。

本教育は、生殖看護専門科目225時間、実習150時間と総合演習(ケーススタディ等)、特定行為研修は放送大学大学院eラーニング263.5時間と区分別「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」実習10症例を含む808時間(1時間45分みなす)の課程です。

特定行為とは、医師の指示を待たず、あらかじめ決められた手順書に基づいて看護師が自主的に実施できる医療行為を言います。生殖医療においては経腔超音波による卵胞及び子宮内膜モニタリングは日常的な重要な検査であり、経腔超音波実施は、保助看法37条「診療の補助」による医療機器の使用、医薬品の授与などの相対的医行為にあたり、医師等の指示があれば看護師は実施でき、特定行為研修において画像診断を学んでおります。

生殖看護認定看護師(以下生殖看護CN)の役割は、不妊症看護CNの役割と同様であり、患者への情報提供と意思決定支援、指導・相談、心理的ケア、医療チームと連携した治療の調整、倫理的課題への教育を通じて、生殖医療に関連する水準の高い専門的なケアを提供します。そのうえで、特定行為研修修了の生殖看護CNの独自の診療補助業務での看護技術として、経腔超音波による正常な卵胞及び子宮内膜計測をカリキュラムにいれました。具体的には、経腔超音波診断と画像判読の講義(3時間)、経腔超音波トレーニングシミュレーター演習「操作方法」「画像診断」「時期別診断ポイント」(10時間)、生殖医療専門医による臨地指導による経腔超音波実習(10例、5時間)、最終試験(2時間)の総20時間の「経腔超音波診断教育」を実施し、看護実践につなげていくことが目的です。

写真は経腔超音波シミュレーター演習の場面です。1期生のほとんどが、臨地での経腔超音波研修を修了でき、将来的には確立した看護技術として診療報酬に繋がっていきたいと考えています。しかしまずは、生殖看護CN数が増加し、看護ケアや指導を標準化し、生殖チームと連携し患者にとって最適な治療計画の調整を支援できる看護を目指したいと考えています。ぜひ、本教育課程へのご協力とご支援をお願い申し上げます。

尚、本教育課程では、講義を対面で聴講できる制度も開始しております。センターの雰囲気も実感して頂けますので、是非、教育センターホームページから申し込みください。



生殖医療専門医の指導のもと経腔超音波トレーニングシミュレーターを使用し、フローブ操作での挿入角度と深さを確認し、卵胞及び子宮内膜肥厚の計測を学習の様子。(2025年3月)

〈第23回日本生殖看護学会学術集会のご案内〉

テーマ：未来をつなぐインターコンセプションケア～生殖看護の新たなアプローチ～

開催日程：2025年10月12日（日）・13日（月・祝）

会場：ホテルコレクティブ那覇（沖縄）

対面開催+オンデマンド配信（10/22～12/1）＊LIVE配信はございません

未来をつなぐ生殖看護の可能性を、沖縄の地で共に探りましょう！

・注目プログラム（★＝アドバンス助産師認証選択研修）

▶日本IVF学会と併催プログラム：10月12日（日）12：00～16：25頃

ランチョントーク：「医療とデザイン—無駄なものは何もない」佐藤 卓氏・竹村 眞一氏

シンポジウム1★：プレコンセプションケアを広く・深く

演者：荒田 尚子先生（成育医療センター）、古賀 文敏先生（古賀文敏ウィメンズクリニック）
原田 美由紀先生（東京大学）

シンポジウム2★：子どものいないカップルへの対応

演者：くどう みやこ氏（まだねプロジェクト）、安田 裕子先生（立命館大学）
小泉 智恵先生（獨協医科大学リプロダクションセンター）

▶学術集会プログラム：10月13日（月・祝）8：30受付開始／9：00～13：00終了予定

会長講演：「未来をつなぐインターコンセプションケア：生殖看護の新たなアプローチ」（阿部 正子）

教育講演★：「ライフコースアプローチにおけるインターコンセプションケアの重要性」

演者：田中 幹二先生（国立病院機構弘前総合医療センター産婦人科）

一般演題・CN企画ワークショップ「生殖看護の実践力を高める現任教育とは」・優秀演題表彰

▶スポンサードセミナー★（オンデマンド配信のみ）

“骨盤底ヘルス”など、アドバンス助産師認証の選択研修に該当するプログラムを予定しています。

●参加登録（オンラインのみ・当日受付なし）

区 分	第1期（～8/18正午）	第2期登録（8/18正午～12/1正午）
会 員	8,000 円	9,000 円
非会員	9,000 円	10,000 円
学生（大学院生を除く）	2,000 円	

・決済方法：クレジットカード（VISA、MasterCard、JCB、AMEX）

・助産師養成課程の学生は学校単位での申込・支払可。お問い合わせは運営事務局まで。

※10月の連休は航空便の混雑が予想されます。旅程のご検討はお早めどうぞ。

●詳細・参加登録はこちら：<https://www.okinawa-congre.co.jp/jsfn23th/>

※最新情報は学術集会ホームページに随時掲載されます。

〈学術集会公式サイト〉

連絡先（学術集会運営事務局）：株式会社沖縄コングレ内
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地3-1-1 日本生命那覇ビル
TEL 098-987-6817 FAX 098-869-4252
E-mail：jsfn23th@okicongre.jp



2024年度生殖看護実践セミナー報告

日本生殖看護学会教育推進委員会 崎山貴代、上澤悦子

現在、ヒトのiPS細胞などから作った精子と卵子を受精させるIVG(in vitro gametogenesis)技術の容認の是非について議論が始められています。この研究により、将来の生殖医療はより発展を遂げるものと考えられます。体外受精以来の大変革の到来といえるでしょう。これに際し、生殖医療に係わる看護職が倫理的な判断力を養っておくことは必要不可欠です。私たちには生命倫理と生殖医療について学ぶこと、自身の倫理観や看護の役割について見つめ直すことが求められています。その機会が得られるようセミナーを企画いたしました。

2025年3月23日(日)に、広島大学大学院人間社会科学研究科教授の澤井努先生を講師としてお迎えし、「先端技術を用いた生殖医療と倫理的課題 ～未来の生殖看護に求められる役割を考える～」をテーマとしたオンラインセミナーを開催しました。参加者は25名でした。

まず澤井先生から倫理理論や倫理原則などの基本的な概念について講義を受けました。その知識を携えたうえで、がん治療で子宮と卵巣を喪失したカップルや同性カップルなどの3事例に対し、IVG技術の生殖利用を認めるべきか、誰の利益(interests)を考慮するべきかについて、グループワークで検討しました。

参加者の方々からは高い評価をいただきました。参加された皆さんは、今までに考えたことのない答えを追求することの難しさやもどかしさを感じたに違いありません。これは、この技術が容認された場合に、社会や個人の価値観が根底から崩れる感覚が生じることを示唆するものといえるでしょう。現在行われている生殖医療でさえ、価値観によりその解釈が異なることはたくさんあるといえます。今回の機会を通して自身の倫理的価値観を見つめなおす経験は、常に幸せは誰のためにあるかを考え続けなければならないかったということを思い起こさせるものとなったのではないのでしょうか。

2024年度生殖看護実践セミナーに参加して

東邦大学医療センター大森病院 生殖看護認定看護師 安宅大輝

今回は、「先端技術を用いた生殖医療と倫理的課題 ～未来の生殖看護に求められる役割を考える～」がテーマであり、私たちは、常に先を見据えた倫理的課題にも備えておかねばならないと認識する機会となりました。1978年に世界で初めて体外受精児が誕生した時には、これほど生殖補助医療が普及すると予測できたでしょうか。もしかすると、講演で紹介のあったiPS細胞などを用いた体外配偶子形成(in vitro gametogenesis: IVG)ですら、近い将来に選択肢の一つとなる時代が来るかもしれません。そして、今回のセミナーでは、IVGを選択するカップルの事例について倫理的視点でグループディスカッションをしましたが、尊重すべき利益は、子どもを授かりたいカップルなのか、生まれてくる子どもなのか、それとも社会の利益を優先するべきかについて活発な意見交換ができました。また、事例はIVGでしたが、グループ内では、がん患者の妊孕性温存、特定生殖補助医療、LGBTQカップルについても波及して盛り上がりました。それぞれ、明確な答えを導き出すには至りませんでした。臨床で活動する私にとっては、生命倫理学といった新たな視点や理論を学べたことがとても新鮮でした。臨床ですぐに応用できる知識を習得することは必要ですが、ダイバーシティが推進される今日においては、多角的な視点で学ぶことも有用かと思います。自らの生殖看護をブラッシュアップすることができた、この度の貴重な機会に感謝致します。

これから行われる学術集会・研修会情報(2025年7月～2025年10月)

月	日	学会・研修会名	会 場	学会HP／運営事務局
7 月	5 日	日本母子看護学会学術集会(第24回) 「Z世代に伝えたい！出産・育児のすばらしさ」	湘南医療大学 東戸塚キャンパス (神奈川県横浜市)	https://jmica.org/24th_jmica/
	5 日～6 日	日本小児看護学会学術集会(第35回) 「未来創世 子どもと家族の今と未来を支える看護の探求」	仙台市中小企業 活性化センター TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口 (宮城県仙台市)	https://www.congre.co.jp/jschn2025/ 【運営事務局】 株式会社コングレ 東北支社 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング TEL: 022-723-3211 FAX: 022-723-3210 E-mail: jschn35@congre.co.jp
	10 日～12 日	日本乳癌学会学術総会(第33回) 「アジアと欧米の違い Bridging across the Pacific」	京王プラザホテル 工学院大学 新宿キャンパス (東京都新宿区)	https://www.congre.co.jp/jbcs2025/ 【運営事務局】 第33回日本乳癌学会学術総会 運営事務局 株式会社コングレ内 〒103-8276 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング E-mail: jbcs2025@congre.co.jp
	13 日～15 日	日本周産期・新生児医学会学術集会 (第61回) 「Future is yours! ～周産期医療の未来は君の手に～」	大阪国際会議場 (大阪府大阪市)	https://site.convention.co.jp/61jspnm/ 【運営事務局】 日本コンベンションサービス株式会社 関西支社 〒541-0042 大阪府中央区今橋4-4-7 京阪神淀屋橋ビル2F E-mail: 61jspnm@convention.co.jp
9 月	20 日～21 日	日本遺伝看護学会学術大会(第24回) 「遺伝看護の智の展開」	慶應義塾大学 信濃町キャンパス (東京都新宿区)	https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/idenkango24 【運営事務局】 第24回日本遺伝看護学会学術大会事務局 慶應義塾大学看護医療学部 成人看護学 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 E-mail: idenkango2025@gmail.com
	20 日～21 日	一般社団法人 日本家族看護学会学術集会(第32回) 「家族看護はえんむすび」	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	https://www.k-cav.com/jarfn32/index.html 【運営事務局】 株式会社シーエービー 内 〒003-0004 札幌市白石区東札幌4条1丁目2-20 安全ビル4F TEL: 011-837-2155 FAX: 011-837-2212 E-mail: cv-t@kcav.co.jp
	26 日～27 日	日本周産期メンタルヘルス学会学術集会(第21回) 「生きる力を次世代につなぐ周産期メンタルヘルス」	一橋講堂 (東京都千代田区)	https://procomu.jp/pmh2025/ 【運営事務局】 株式会社プロコムインターナショナル 〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9階 TEL: 03-5520-8822 E-mail: pmh21@procom-i.co.jp
10 月	9 日	日本分娩研究会(第41回) 「妊娠前から始める妊産褥婦のケア」	京王プラザホテル (東京都新宿区)	http://bunben2025.kenkyuukai.jp/special/?id=45424 【運営事務局】 ネクストイノベーションパートナーズ株式会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館20階 TEL: 03-5288-5163 FAX: 03-5288-5183 E-mail: bunben2025@nip-sec.com
	10 日～11 日	日本母性衛生学会学術集会(第66回) 「母性衛生が拓く母子の笑顔」	京王プラザホテル (東京都新宿区)	https://supportoffice.jp/jsmh2025/ 【運営事務局】 有限会社ビジョンブリッジ 〒162-0833 東京都新宿区笹塚43 新神楽坂ビル2階 TEL: 03-5229-6888 E-mail: jsmh66@supportoffice.jp
	12 日～13 日	日本生殖看護学術集会in沖縄(第23回) 日本IVF学術集会併催(第28回) 「未来をつなぐインターコンセプション ケア～生殖看護の新たなアプローチ～」	ホテルコレクティブ (沖縄県那覇市)	https://www.okinawa-congre.co.jp/jsfn23th/index.html 【運営事務局】 株式会社沖縄コングレ 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地3-1-1日本生命那覇ビル TEL: 098-987-6817 E-mail: jsfn23th@okicongre.jp

不妊症看護認定看護師 リレー寄稿 No.28

QOML(Quality of Medical Staff's Life) を上げていこう

株式会社ポピンズファミリーケア 荒木依理

聖路加6期生の荒木です。同期の星るり子さんからバトンを受け、自身のライフワークの中で最も重要視している、「ケアをする側のケア(メンテナンス)」についてお話させて頂きたいと思います。

現在所属の企業では、働く女性の支援をミッションに、保育事業などを展開しています。日々、皆様の大切なお子様を見守る保育士の方から、「子供が好きで選んだ仕事なのに、自分は授からずつらい」という声や、「子供をもたない選択だが、園児と接して、自分は本当にこれでいいのか…」といった心の彷徨に苦悩され、ご相談を受けることがあります。このように絡まっていく心の鎖を丁寧にほどき、本来のその方の価値観や自己決定を尊重する機会をもつことは、その方が他者にケアを提供する上での、モチベーションやパフォーマンス向上に繋がると考えます。

私たち生殖医療従事者もまた、日々、不妊治療中の患者様と接する中で、想像できないような共感疲労や二次受傷を負うことがあります。医療者は本来、患者のQOL(Quality of Life) 向上が使命ですが、そのためにはまず、私たち自身のQOML(Quality of Medical Staff's Life) の維持・向上が不可欠であると考えております。カウンセリングやスーパービジョンも有効ですが、私の場合、“美味しいお寿司”が効果的なようです。皆様のQOMLが“爆上がり”する趣味、お気に入りの場所や患者様から頂いた言葉など、是非教えてください。バトンは同期の若林加菜子さんに繋がります。

・オンラインジャーナル公開開始のご案内・

日本生殖看護学会では、掲載論文等へのアクセスを容易にし、電子化に伴って環境への配慮やコスト削減にもつながることを考え、日本生殖看護学会誌のオンラインジャーナル化について検討を重ねてまいりました。このたび、下記の通り本学会誌をオンラインジャーナルとして、当学会ホームページの会員専用サイトに加え、独立行政法人科学技術振興機構が運用する科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)に搭載することになりました。会員の皆様にはぜひともご活用いただきますようご案内申し上げます。

<J-STAGEに関する情報>

搭載予定：2025年7月1日

掲載機関誌号：22巻1号から

閲覧方法：抄録はフリーで公開されますが、論文の閲覧にあたってはIDとパスワードの入力が必要となります。IDとパスワードは学会ホームページの会員専用サイトに掲載しますので、ご参照ください。



TOPIX トピックス

こども家庭庁が2025年5月22日に、『プレコンセプションケア推進5か年計画～性と健康に関する正しい知識の普及と相談支援の充実に向けて～』を発表しました。これにより、プレコンセプションケアの概念は、「性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う」ことであると明記されました。5か年戦略として、1. すべての世代の方々に向けて「性や健康に関する正しい知識の普及と情報提供」として、プレコンセプションケアの普及に係る人材（プレコンサポーター）を5万人以上育成すること、2. 妊娠・出産を含めた性や健康に関する相談をしたい方に向けた「相談支援の充実（一般相談）」として、夜間休日対応や、電話・オンライン・メール・SNSを活用して、相談者の利便性に配慮した相談支援体制を整備すること、3. 専門的な相談をしたい方に向けた「相談支援の充実（専門相談）」として、専門相談医療機関数を200か所以上にして、医療者用相談対応マニュアルを作成、周知していくことになりました。

こどもみんなが
こども家庭庁

プレコンセプションケア推進5か年計画（概要） ～性と健康に関する正しい知識の普及と相談支援の充実に向けて～

背景と経緯

- 「成育医療等基本方針（令和5年3月改定）」にプレコンセプションケアの推進についての方針が定められたほか、「経済財政運営と改革の基本方針2024」に「相談支援等を受けられるケア体制の構築等プレコンセプションケアについて5か年戦略を策定した上で着実に推進する」旨が盛り込まれた。
- 若い世代が自分の将来を展望する際に、性や健康・妊娠に関する正しい知識の取得方法や、相談する場所・手段について、必ずしも広く知られていない現状を踏まえ、「プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会 ～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～（座長：五十嵐隆国立成育医療研究センター理事長）」において、プレコンセプションケアに係る課題と対応について整理を行い、「プレコンセプションケア推進5か年計画」を策定。

プレコンセプションケアの概念及び 現状・課題とその対応にあたっての基本的な考え方

1. プレコンセプションケアに関する概念の普及

- プレコンセプションケアは「性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う」概念であるが、言葉自体や概念についての認知度は低い。
- 思春期から成人期に至るまで、性別を問わず**全ての人が、発達段階や状況に応じてプレコンセプションケアという概念を知り、それに関する知識について、適切に身につけることは重要。**

2. プレコンセプションケアに関する相談支援体制の充実

- プレコンセプションケアに関する相談先として、自治体における「性と健康の相談センター」等があるが、広く知られていない現状がある。
- 若い世代の方が、より相談しやすいような体制づくりが必要。

3. 専門的な相談支援体制の強化

- 基礎疾患のある女性が、説明を受けないまま、妊娠する方がいる実情や、かかりつけ医等と産婦人科医の連携が不十分という指摘も。
- 産婦人科以外の医師もプレコンセプションケアに関して十分な知識を持つとともに、かかりつけ医等と産婦人科医の必要な連携に資する情報提供資料が必要である。

取組推進にあたって

- プレコンセプションケアの推進にあたっては、若い世代の意見を聴き、当事者のニーズに沿った取組を実施し**施策の効果を定期的に評価。**
- 国は、国立成育医療研究センターと連携し技術的に支援、自治体は国の「5か年計画」を参考に「**地方版推進計画**」を策定する等計画的に推進。

今後5年間の集中的な取組

対象者層

全ての世代の方々

妊娠・出産を含めた性や健康に関する相談をしたい方

専門的な相談をしたい方

性や健康に関する正しい知識の普及と情報提供

- ★ SNS等を活用した積極的な情報発信。
- ★ プレコンセプションケアの普及に係る人材（プレコンサポーター）を育成するとともに、啓発資料の作成等、自治体・企業・教育機関等における講演会等の開催支援。

相談支援の充実（一般相談）

- ★ 「性と健康の相談センター」等プレコンセプションケアに関する一般的な相談ができる窓口の認知を推進。
- ★ 身近な地域において医療機関等も含め、専門家による相談支援体制の整備を図る。
- ★ 夜間休日対応の実施や、電話・オンライン相談、メールやSNSの活用等、相談者の利便性に配慮。

相談支援の充実（専門相談）

- ★ 基礎疾患を有する方等が、医療機関等でプレコンセプションケアに関する相談ができるよう、**全国に相談窓口を展開するとともに、専門外の医師の適切な対応にも資するよう、医療者用相談対応マニュアルを作成し、周知。**

（目標）
認知度 80%
プレコンサポーター
5万人以上

（目標）
相談窓口認知度
100%

（目標）
専門相談医療機関数
200以上

出典：こども家庭庁

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/355db5bf-037d-4d17-bd25-d1382da80d5f/573b3409/20250522_councilspreconception-care_02.pdf

2025年度オンライン学習支援プログラムを月1回、配信中です!!

会員マイページ内に、5月から第三木曜日12時より、学習支援eラーニングとして15分の動画を月1回配信しています。

・現在までの配信中動画（一部、配信順の変更有）

5月 講師 坂上明子氏 「SRHRと包括的セクシュアリティ教育」

6月 講師 大橋一友氏 「性ステロイドホルモンを理解しよう」

7月 講師 小松原千暁氏 「不妊治療を受ける患者の心理」



臨床実践に大変役立つ内容ですので、マイページ→オンライン学習支援プログラム→サムネイル画像から、お入りください。何度でも視聴可能です。

学習支援eラーニングワーキング担当 上澤、小松原、西岡

理事会報告

第1回理事会

日時：2025年5月12日（月）18:00～20:40

方法：Web会議；Zoom

出席者：朝澤，上澤，小松原，坂上，崎山，清水，
林，野澤，森明，森恵，青柳

オブザーバー：阿部

欠席者：西岡（敬称略）

【報告事項】

1. 阿部正子学術集会長より、第23回日本生殖看護学会学術集会進捗報告
2. 教育推進委員会：崎山貴代理事より、2024年度生殖看護実践セミナー報告
3. 広報委員会：朝澤恭子理事より、広報活動計画、ニュースレター発行計画
4. 編集委員会：野澤美江子理事より、学会誌22号の進捗状況と電子化について報告
5. 実践開発委員会：小松原千暁理事より、相談員派遣、地区実践セミナー進捗状況報告
6. 学習支援eラーニングWG：上澤副理事長より、進捗状況報告

7. 看保連対応WG：森明子監事より、R8年度診療報酬改定要望書提出、選定療養費について 清水理事より、技量技術評価提案書提出の報告
8. 総務：青柳理事より、会員動向報告
9. 坂上理事長より、CN活動評価研究の実施について

【審議事項】

1. 2024年度収支決算報告、会計監査報告：承認、会員マイページに掲載
2. 企業等からホームページ広告掲載依頼への本学会の対応：規約および広告掲載手順について継続審議
3. 研究勉強会企画案について：修正後メール審議で承認
4. 2025・2026年度学会スケジュール：ニュースレター発行は7月、11月、3月とする。2025年度は中間報告として事業活動報告を行う。
5. 入会審査：9名の入会、5名の退会、1名の強制退会取り消しを承認

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、ホームページ、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailで、気軽にご連絡ください。
2. 2025年度より、学会の会期が4月1日～3月31日に変更となりました。年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めをお願い申し上げます。
3. 住所、メールアドレスに変更のある方は、必ずホームページのマイページから変更をお願いします。変更ができない方は事務局にご連絡ください。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌、勉強会等のお知らせ、その他情報をお届けすることができませんので、ご協力お願い申し上げます。
4. マイページの職種欄の記載方法を一部変更しました。会員の皆さまご自身の職種欄をご確認の上、誤り等ありましたら事務局にご連絡いただくようお願いいたします。
5. 会員数307名(2025年6月1日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。また、ホームページ画面から入会申込みができます。

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22

東京工科大学医療保健学部看護学科内

事務局E-mail: jsfnjimu@gmail.com

ホームページ <https://jsfn.org>

会費納入先

ゆうちょ銀行(振替)

口座番号: 00170-2-333413

加入者名: 日本生殖看護学会

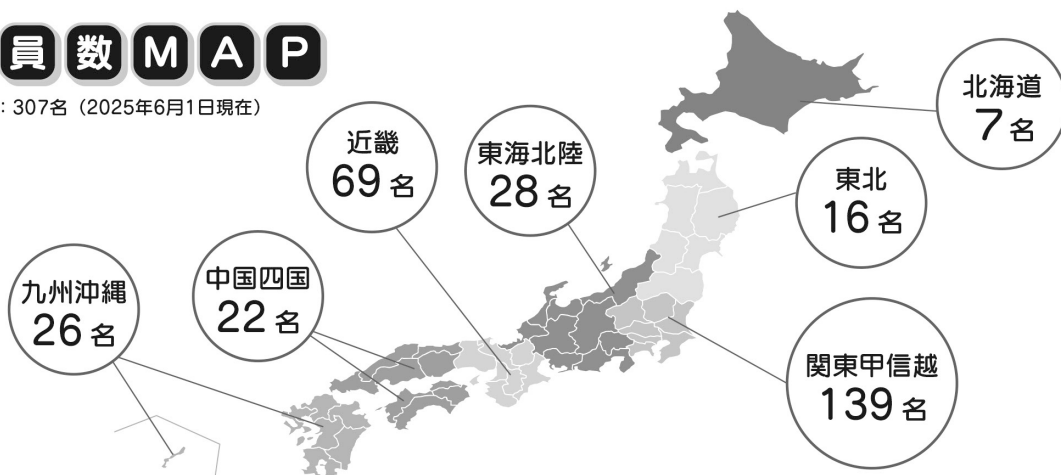
ゆうちょ銀行(振込)

〇一九(ゼロイチキウ)店(019) 当座0333413

口座名義: 日本生殖看護学会

会員数MAP

会員数: 307名(2025年6月1日現在)



原稿を募集しています！

ニュースレターを通じて実践活動や勉強会などの情報を共有しませんか？掲載を希望される方は広報委員会（西岡：yuka.kawasaki13@gmail.com または 朝澤：k-asazawa@thcu.ac.jp）までご連絡ください。
ニュースレター第72号の原稿締切日は、2025年10月24日（金）を予定しています。

編集後記

今年も猛暑になりそうです。日頃、看護実践に取り組まれている皆様が熱中症にならないよう願っております。今年の学術集会は沖縄で開催されます。豊かな自然に癒されながら、新しい知識を吸収し、交流を深めていただくと幸いです。貴重な原稿の作成にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

広報委員会 西岡有可、朝澤恭子